

授業科目	文化人類学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	EN31303J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-3 DP5-1			
担当教員	張 平平							
授業概要	<p>文化人類学とは異文化を社会的・文化的視点から理解する分野である。私たちは無意識のうちに自分自身の属する文化と時代の尺度から異文化を評価してしまう傾向がある。そのような認知の制限から自らを解放し、実体験を通じて多様な文化の価値観を客観的に捉えようとするところこそが文化人類学の調査方法であるフィールドワークの基本的な姿勢だ。</p> <p>急速にグローバル化が進む現代において、異文化を理解するということは個人間の誤解から国家間の摩擦までを建設的に解決する手がかりにも成り得るのではないだろうか。本講義では世界各地における人類の拡散及び適応のさまざまな事例を通じて学生の異文化理解力の発展を促す。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な文化が存在するという事をさまざまな事例を通じて理解する。 ・人類の拡散と適応に関する世界各地の事例について学ぶ。 ・上記の目標を達成することで異文化理解の教養を身につける。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	30	10	10	100	
知識・理解 (DP1-1)			20	10			30	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10	10			20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			20	10			30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)					5	5	10	
技能・表現 (DP5-1)					5		5	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
多種多様な文化の事例についてそれぞれの適応方法・背景・特徴を理解し、詳細に説明することができる。また、学びを今後の異文化理解の機会においてどのように活用できるかを自らの事例として想定し、考察することができる。				多種多様な文化の事例について大まかな違いを理解し、説明することができる。また、理解した知識を踏まえて今後の異文化理解の機会において一般的にどのように活用できるかを考察し、説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	イントロダクション: 授業内容・進行方法・評価方法の説明 人類の拡散に関する基礎知識			講義・グループワーク		講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること		60

2	原始人の拡散と適応： ーチベット高原の事例ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
3	現代人の拡散と適応： ーチベット高原の事例1ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
4	現代人の拡散と適応： ーチベット高原の事例2ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
5	発表ディスカッション1： チベット高原の事例を踏まえ、原始人と現代人の生態環境の適応を比較し、意見交換をする。	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
6	グローバル化における現代人の拡散と適応： ーアメリカにおける中国人の事例ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
7	グローバル化における現代人の拡散と適応： ーアメリカにおける日本人の事例ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
8	グローバル化における現代人の拡散と適応： ー中国における日本人の事例ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
9	グローバル化における現代人の拡散と適応： ー日本における中国人の事例ー	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
10	発表ディスカッション2： 各国の事例を踏まえて、現代人の文化的適応を比較し、意見交換をする。	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
11	発表準備： これまでの学びを異文化理解の場面においてどのように活用できるかを自らの考えをまとめて発表する。	講義・グループワーク	各自の発表を準備する	60
12	発表1(発表者以外は発表者のフィードバックをする)		各自の発表を準備する	60
13	発表2(発表者以外は発表者のフィードバックをする)	講義・グループワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
14	講義のまとめ： 講義全体をおさらいし、ポイントを整理する。	講義・グループワーク	講義内容を復習	60
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業の内容を踏まえて、発表を行い、授業内容を理解し、自らの意見を簡潔に伝達する能力を望む。			
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	川口幸大(2017)「ようこそ文化人類学へ」昭和堂 綾部恒雄・桑山敬己(2006)『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 アリス・ロバーツ(2013)『人類 20 万年遥かなる旅路』文藝春秋 野中香方子(訳) そのほか講義中に紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	これまで、身近で体験した異文化理解の場면을整理するのが望ましい。また、発表に向けて、授業時間以外に準備する必要がある。			
達成度評価に関するコメント	期末レポートとグループワークや発表によって、総合的に評価します。成績評価の「その他」の点数は、授業理解に貢献する発言や態度に付与されます。			

